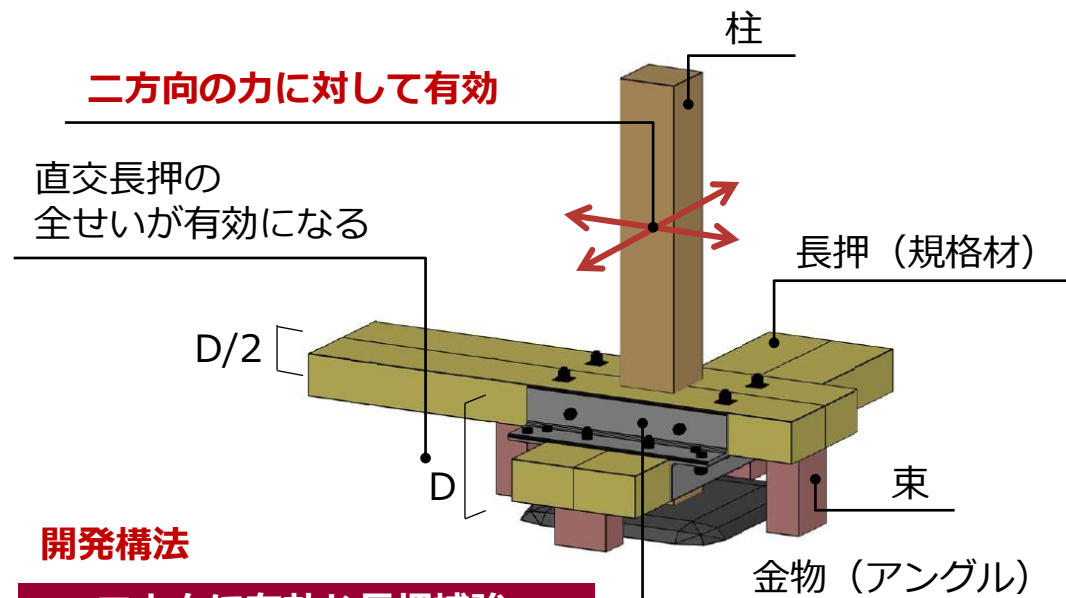
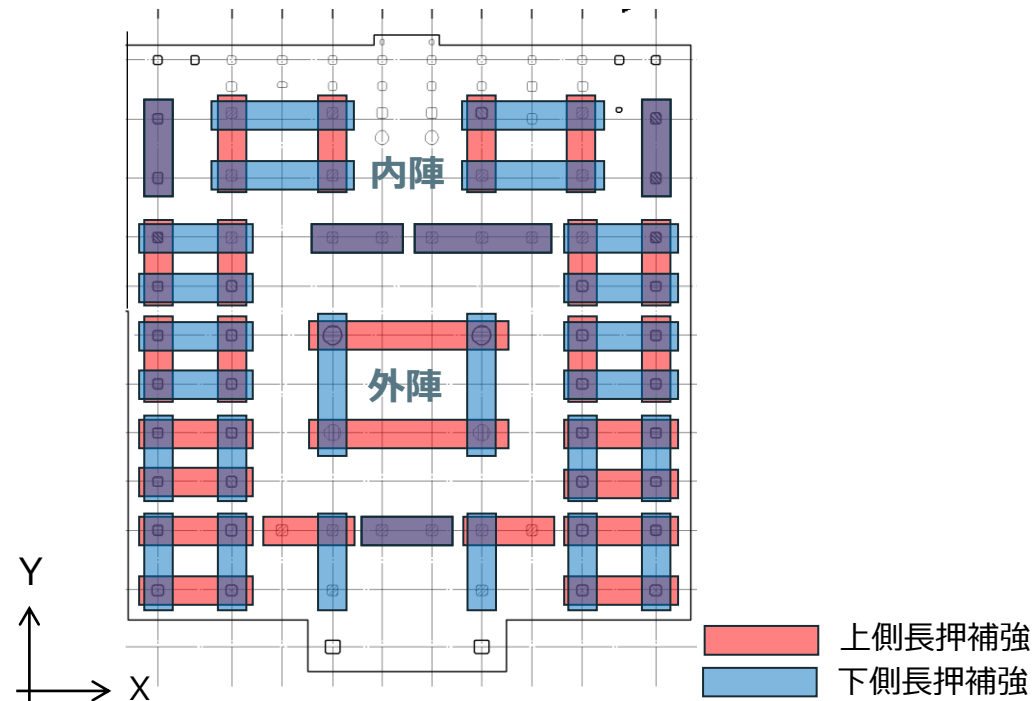


重要文化財 称念寺本堂 二方向に有効な長押補強構法の開発

開発構法の特徴

- 床下のみで完結する内外観を変更しない構法
- 既存の柱を変更しない構法
- 将来取り外すことができる構法
- すべての柱に補強できるバランスのよい構法
(水平構面の補強が不要になる)
- 材料の入手や加工が容易な誰でも使える構法
(長押は流通材で構成している)

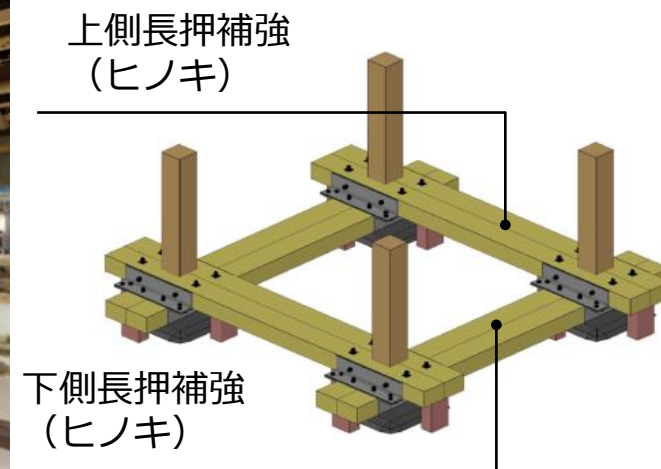


開発構法

二方向に有効な長押補強



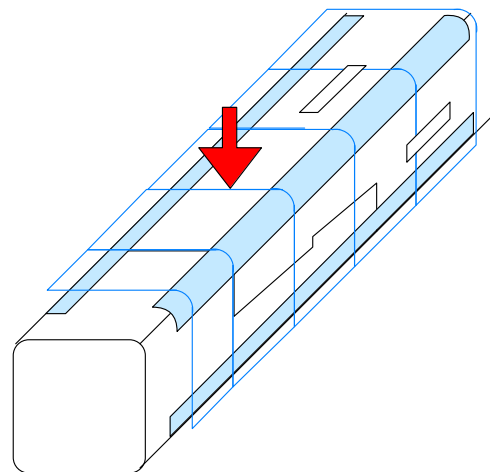
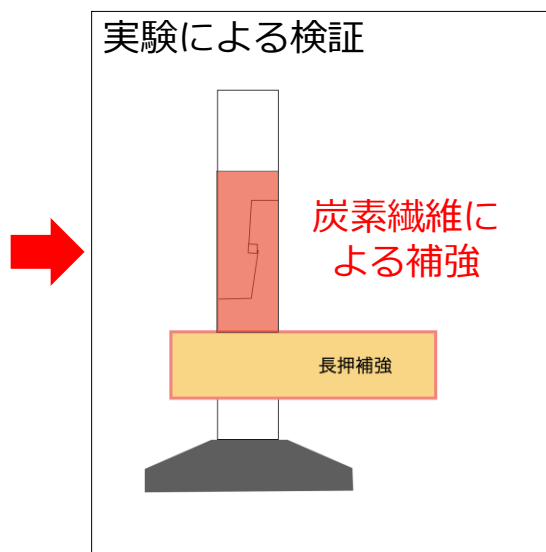
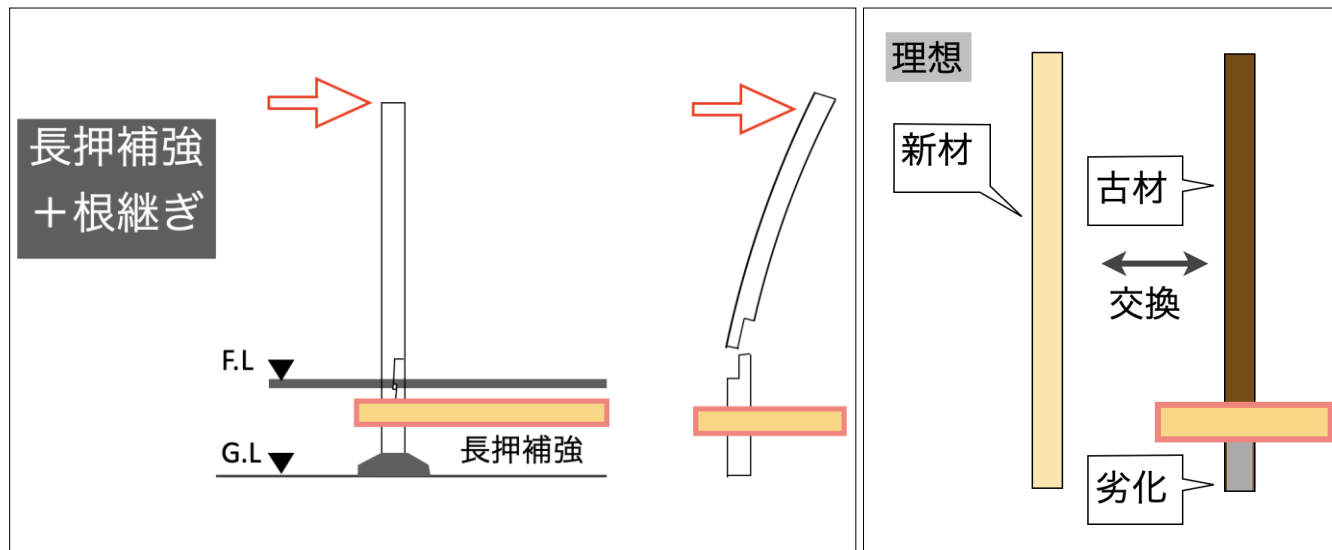
施工の様子



二方向に有効な長押補強概要図

重要文化財 称念寺本堂 炭素繊維による根継補強

- 長押補強により重要な柱を折損させないため、炭素繊維により、金輪継手の補強を行った
- 実際の工事に携わる大工と協業し、施工方法を確立した



根元が痛んだ柱を丸々新材に取り替えることなく、根元のみを継ぎ、炭素繊維で補強することによって再利用することが可能となった



< 施工写真 >